

謹啓

この度の西日本豪雨災害に際しましては、多大なるお見舞いや励まし、ご尽力を賜り、誠にありがとうございます。丁寧極まるご配慮をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

当院におきましては、多くの職員の自宅が大浸水となり、避難所で生活することとなりました。さらに断水、固定電話回線・インターネット回線が不通となりました。ただ幸いにして病院建物の浸水被害はありませんでしたので、発災直後から近隣の皆様方に、避難所として当院を利用していただけました。

断水に対しては、倉敷市にお願いして毎日何往復も給水車で水を運んでいただきました。その水を地元の方々と共に大切に大切に、「節水」して使わせていただきました。節水に努めなければまたすぐに断水となってしまうため、入浴は工夫して行うべく努力いたしました。食事も、「おにぎり」と入手困難な食材で食べていただきました。皆様は「おいしい」と言ってくれました。

電話の不通に対しては、おかけいただいた電話を携帯電話に転送する対応処置を講じましたが、電波状況の悪い折からつながりにくく、皆様に大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。

このような状況の中、一日も休むことなく外来診療を通常通り行うことができました。一番大変な時を、療養中の皆様と共に生きてきたと存じます。何よりも、多くの支援をいただいた皆様のおかげです。

七月二十四日に水道が、次いで三十一日に固定電話回線が復旧し、療養を支える環境が戻ってまいりました。被災している職員も徐々に復帰しつつあります。

私たちは多くの方々と共に開院以来、精神医療とは何か、人間とは何かを問い続けてまいりました。これからもこの私たちのテーマを、多くの方々と一緒に考え続けてまいりたいと存じます。今まで通り、ご援助を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございます。

末筆ながら、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

謹白

追記

神様は、台風を東から西に向けました。

悲しい状況でした。

真備町の皆様は耐えられました。

これからどうなるのか、真備町で唯一浸水しなかった医療機関として、頑張つてまいります。

一緒に「これから」を考え、行動してまいります決意であります。

平成三十年八月

医療法人社団造山会 まきび病院

院長 一色 隆夫

副院長 佐野 晋

職員 一同